

議 事 録

会議名	釧路市障がい者自立支援協議会 第4回 生活支援部会	
事務局	釧路市障がい福祉課 釧路市障がい者基幹相談支援センター	
開催日時	令和5年2月27日(月)15:00~17:00	
開催場所	釧路市柳町スピードスケート場 1階会議室	
出席者	部会員	出席 20名(敬称略) 議事録 岡田 栄二(プロムナード釧路) 高橋部会長(鶴が丘学園) 佐藤副部会長(ニチイケアセンター) 池守(KCマインズ) 小形(鶴野支援学校) 堀(鶴野支援学校) 藤山(くしろ地域生活支援センター) 松田(ぼこあぼこ) 遠藤(山百合) 福井(さわらび) 工藤(CLAMA) 三輪(中標津支援学校) 藤澤(中標津支援学校) 大刀祢(釧路養護学校) 菅原(音別町行政センター) 竹川(プルミエ) 今野(ふろぐれ) 北川(丹頂の園) 平間(釧路社会福祉協議会) 種村(すてっぷ)
	その他	
	傍聴者	
	事務局	出席3名 高杉・鈴木(障がい福祉課) 金子(釧路市障がい者基幹相談支援センター) (敬称略)
会議次第	1. 開会 2. 挨拶 3. 報告事項 1) 令和4年度 第3回生活支援部会開催結果 4. 協議事項 1) 第3回生活支援部会の研修を振り返って(グループワーク) 2) 来年度の活動内容を考える(グループワーク) 5. その他 6. 閉会	

議 事 内 容

1. 開会の挨拶 事務局 金子氏

2. 釧路市障がい者自立支援協議会 生活支援部会長 高橋氏より挨拶

生活支援部会の開催については新型コロナウイルス感染予防として持ち込ませないという対策が優先される事業所が多くある中、書面開催、ZOOMでの開催と開催方法を模索してきた。今回参集しての開催ができ、多くの参加を頂けたことで一步前進できたと感じている。社会情勢も今までの生活を取り戻そうとする流れになっているが、今後も慎重な対応が必要となる。

来年度は第7期の釧路市障がい者福祉計画、第3期の障がい児福祉計画の見直しの時期になる為、参集しての意見交換を実施していきたい。昨今の報道では北海道で起きた虐待事案の為、それぞれの事業所で虐待があるわけではないが、世間の目が厳しくなったり、働きたいと希望する職員が減るなど働きづらい環境になることが懸念され、利用者にも影響が広がってしまう。またコロナで閉鎖的なことも虐待につながると報道されている。北海道からの調査も進められており、環境的な要因も大きい事も伝えていかなければいけないと感じている。部会を通して、課題、問題を発信することも重要と思う。個人的には問題点ばかりではなくイキイキと生活している利用者の姿についても発信していきたい。

本日の部会は今年度の振り返りと来年度に向けてとなる為、話題は様々となると思うが情報共有、交換をたくさんしていただきたい。

3. 報告事項

1) 令和4年度 第3回生活支援部会開催結果

ZOOMでの研修形式

釧路せんもん学校の先生に講師をしていただいた。「高齢期の健康を支える配慮やポイント」について長谷先生に講義いただき、転倒、転落の原因には筋力の低下が考えられ、日常のケアの観察の中で違和感に気づくことが大切であることを伺った。また水分摂取や生活習慣病の予防も大切であることを具体的に講義いただいた。「介護スキルの基礎～生活を支えるための介護技術」では伊東先生から講義いただいた。まず始めに利用者さんに介護が必要な状態であることを理解していただくことが重要で、その為にはコミュニケーションを図り、伝え方に配慮が必要である事を学んだ。利用者の自己選択を支える介護を行う為に専門的なスキルの習得が必要であり、その中でボディメカニクスを使った支援について動画を活用しながら学ぶことができた。

研修内容については録画されており、共有できるようにしていく事を検討している。

4. 協議事項

1) 第3回生活支援部会の研修を振り返って（グループワーク）

A グループ：司会 高橋氏、発表者 福井氏

- ・高齢者の健康を支える事については支援学校の先生もおおり、すぐに活用するということはないが、知識として学ぶことができ良い研修であった。
- ・動画やZOOMで見て研修できることが良かった。

議 事 内 容

- ・高齢の利用者がいる事業所では医療行為や看取りの課題がある。次の行き先を考える必要も出てくるとの話があった。
- ・来年度に向けての研修では高齢についての研修も良いが、新たな課題を吸い上げて研修を行うと良いと思う。

B グループ：司会 佐藤氏、発表者 平間氏

- ・高齢者の特徴を捉えた支援、介護技術についてはわかりやすかった。子どもや病気の方を支援する時にも同様な配慮が必要な場面はある為参考になった。
- ・研修と現場は違う為、日々の中で当該利用者に合わせた支援が重要。
- ・新規の利用者との関わりでは事前情報も大事であるが、関わる中でご本人の理解を深めることが重要。ご家族の希望とご本人の希望が違う時に難しさが生まれる。

C グループ：司会 金子氏、発表者 松田氏

- ・研修の振り返りでの話では高齢者の方の嚙下の話が話題にあがった。現場での対応などそれぞれの取り組みについて意見交換できた。
- ・研修内容を現場にどのようにフィードバックしたら良いか課題となる。限定配信はされているとの事であるが、うまく活用したい。
- ・支援学校でも卒後3年間は経過を追うが、その後についてはわからない事が多い為、今回の研修内容は参考になった。

2) 来年度の活動内容を考える（グループワーク）

C グループ：司会 金子氏、発表者 松田氏

- ・新型コロナウイルスの類型が5類に変わる中で、利用者の方の生活に合わせて外出先での支援も必要になる。店での支払い方法の変更やマスク着用等。
- ・余暇に注目した研修もあると参考になるのではないか。現状の中でも実施できる余暇活動について情報交換できると良い。
- ・虐待防止についての話では知的重度の方を支援する中で権利擁護は当たり前の話。障害特性を理解しないで対応すると虐待につながると感じる。虐待防止の研修と言っても障害特性を知り、正しい対応を身につけることが大切という内容になると考えられる。
- ・困難事例について情報交換していた。支援学校の先生も対応について知りたいと意見があった。困難事例の紹介も良い情報交換となる。

B グループ：司会 佐藤氏、発表者 平間氏

- ・支援学校の先生より学校の進路について情報が欲しい。また相談できる場があると良い。家族の状況もある為、進路決定が簡単ではないとの話があった。
- ・研修も大切であるが、たくさんの事業所が集まる場である為、困難事例など情報共有できると良い。うまくいった事例も良いが、うまくいかなかった事例でも良い。

議 事 内 容

第3者の視点で再発見があると思う。うまくいかなかった事の中にも良かったこともある。事例検討を行うとなると発表までの準備が大変になる。準備に時間を掛けずに日頃の困り事などを持ち寄って話す程度の準備で進められるようにしていくと良い。

- ・行政の方が参加する会議の為、利用者、事業所の課題や困り事の解決に向けて計画策定など変えられる事を変えて頂けるような部会になると良い。コロナ前はそのような部会になっていたと聞いている。
- ・事業種別に別れてグループワークを行うのも良いが、色々な立場の方が混ざり合うグループワークも参考になる。

A グループ：司会 高橋氏、発表者 遠藤氏

- ・研修内容については自立したい方に対してどのような支援が必要になるか検討を行う（後見制度、就労支援、生活支援）グループホームを出た後の一人暮らしにはどのような支援があるのか等の知識を得られるとよい。
- ・障がい特性の理解について、障がい特性なのか、わがままなのか分かりにくい方に対する関わり方はどうしたら良いか？
- ・虐待防止の取り組みについて、職員の価値観が違う為言葉の掛け方が違う。こまかな問題があり、グレーゾーンと感ずることに対して各事業所の取り組みはどのようにしているのか知りたい。
- ・学校の先生からは地域で生活する為のサービスの利用と関係機関の連携について知りたいとの意見があった。卒業後10年後に単身で生活できない方のサービスにはどのようなものがあるか知っていると保護者への説明もしやすく、安心していただける。
- ・親の亡くなった後の手続きについて知っておきたい。
- ・困難事例の話題で話が盛り上がった。解決方法までいなくても情報を共有することでアイデアを頂ける機会になる。

高橋部会長より

- ・次年度も参集で開催できると良いと感じる。具体的な事例を持ち寄って話をすることが今までリモートでも難しかった。解決につなげる事は難しいかもしれないが、事例の準備に時間をかけずにサービスの連携や困難事例の話ができれば良いのかと感じた。本日の意見を参考に次年度の活動計画を作成していく。

5. その他

- ・事務局より連絡事項なし。
- ・次年度の生活支援部会の案内や取りまとめは役員が中心となり行う事になる。

6. 閉会